

1. 当中間期連結決算の概況

(1) 2005上半期の状況

当上半期の内外の需要は、我が国経済の緩やかな回復や米中の景気拡大により、概ね堅調に推移しましたが、当社の化学品・コーラルケミカル事業につきましては、原料価格高騰の影響を受けました。また、電子材料事業では、昨年秋口からの在庫調整が長引き、主力製品の2層CCL「エスパネックス」の販売は伸び悩みました。かかる状況の下、グランドデザインの実現に向け、「選択と集中」を一層加速すると共に、コストダウン施策を引き続き進めてまいりました。この結果、当上半期の連結売上高は1,468億円、連結経常利益は102億円を計上し、上期末の連結有利子負債残高は987億円となりました。

< 2005年度中間損益状況 >

	2004中間			2005中間			差異		
	(単独)	(子会社等)	連結	(単独)	(子会社等)	連結	(単独)	(子会社等)	連結
売上高	1,022	271	1,293	1,095	373	1,468	73	102	175
営業利益	108	5	113	63	36	99	×45	31	×14
経常利益	106	6	112	63	39	102	×43	33	×10
当期純利益	106	11	95	37	20	57	×69	31	×38

*NSCCアジアからの配当14億円を含まず。

	2005年3月末			2005年9月末			増減		
有利子負債	945	148	1,093	903	84	987	42	64	106

< 事業構造改善への取組み状況 >

- ・堺フタル酸工場の廃止(05年6月)
- ・戸畑フェノール工場の廃止(05年6月)、ビスフェノールA事業に係る三菱化学(株)との合併事業解消(05年3月)
- ・韓国・錦湖P&B化学(株)からの原料フェノール調達開始(05年3月新フェノール設備稼働)
- ・新日化ロックウール(株)、日本ロックウール(株)及び新日本熱学(株)のニチアス(株)への譲渡(05年7月)

< グランドデザイン収益目標 > (2004年4月発表)

- 達成年度は2010年
- ・収益目標 : 経常利益 300億円、ROS=10%以上、電子情報分野での比率 50%以上、新規製品による経常利益 20%
 - ・財務目標 : 自己資本比率 50%

(2) 2005年度見通し

当下半期は、原油・ナフサを始めとした原料価格の高止まりや米中景気の減速リスク等、当社の事業環境には不透明感が増しております。こうした中、電子材料事業では、九州製造所の「エスパネックス」の新設備(第6系列:7月、第7系列:12月)稼働により、生産能力を年850万㎡に拡充し、国内外のお客様のニーズに応える高機能商品の生産能力を強化します。弛まないコストダウン施策の実施と新設備の稼働効果により、通期の連結売上高は3,000億円、連結経常利益は240億円、年度末連結有利子負債残高は900億円を目標としております。

< 財務実績・計画 >

	2004年度実績		2005年度当初計画		2005年度見通		連結中期経営計画 2005年度計画	
	(単独)	連結	(単独)	連結	(単独)	連結	(単独)	連結
売上高	2,001	2,706	2,240	2,900	2,265	3,000	2,040	2,040
営業利益	217	260	185	255	165	240	130	130
経常利益	196	237	175	240	160	240	130	130
有利子負債	945	1,093	900	900	900	900	1,300以下	1,300以下
ROS	8.8%		8.3%		8.0%		6.4%	

< 2層CCL「エスパネックス」の新設備稼働実績・予定 >

- ・第6系列 九州製造所 生産能力150万㎡/年(累計700万㎡/年) 2005年7月
 - ・第7系列 " 150 (850) 2005年12月
- 「エスパネックス」の用途拡大: 携帯電話ヒンジ部や液晶ドライバー周辺向けに加え、大型液晶ディスプレイ用COF向けにも用途が拡大しております。

2. 損益状況

	2004中間		2005中間		差異		2004実績	
	(単独)	連結	(単独)	連結	(単独)	連結	(単独)	連結
売上高	1,022	1,293	1,095	1,468	○73	175	2,001	2,706
営業利益	108	113	63	99	×45	×14	217	260
経常利益	106	112	63	102	×43	×10	196	237
事業構造転換損失	20	20	1	1	○19	19	54	40
投資有価証券売却損益	18	2	1	1	×17	×3	16	1
固定資産処分損益	2	2	-	-	×2	×2	1	4
退職給付会計変更時差異償却	10	11	-	-	10	11	20	21
その他	2	1	-	-	2	1	1	1
特別損益	12	28	0	2	○12	26	60	67
法人税、税効果等	12	11	26	38	×38	×49	45	40
少数株主損益	-	0	5	5	×5	×5	-	2
当期純利益	106	95	37	57	×69	×38	181	208

3. 経済指標・製品価格

	2004年度実績			2005年度見通		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期見通	下期見通	通期見通
為替 円/\$	110	106	108	109	110	109
原油 \$/BBL	36.6	40.7	38.7	52.9	56.0	54.5
ナフサ \$/BBL	41.4	48.4	44.9	52.5	62.0	57.3
国産ナフサ 円/L	30.5	34.1	32.3	38.0	45.0	41.5
SM台湾CIF \$/t	1,120	1,220	1,170	1,050	1,200	1,125
BPA中国CIF \$/t	1,460	2,030	1,745	1,560	1,500	1,530

4. 資産/負債状況
< 連結貸借対照表 >

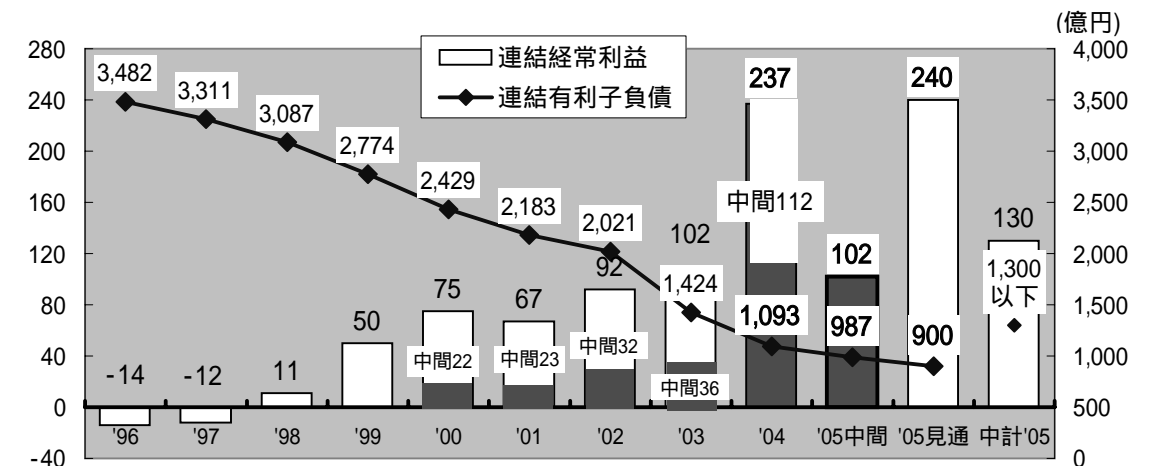
科目	2005.9末			2005.3末			増減	科目	2005.9末			2005.3末			増減
	2005.9末	2005.3末	増減	2005.9末	2005.3末	増減			2005.9末	2005.3末	増減				
流動資産	815	820	-5	流動負債	1,181	1,382	-201	現金預金	20	37	-17	支払手形・買掛金	431	412	19
現金預金	20	37	-17	受取手形・売掛金	428	430	-2	短期借入金	503	687	-184	その他	247	283	-36
受取手形・売掛金	428	430	-2	棚卸資産	204	206	-2	繰延税金資産	9	9	0	固定負債	640	564	76
棚卸資産	204	206	-2	繰延税金資産	9	9	0	長期借入金	484	404	80	退職給付引当金	127	131	-4
繰延税金資産	9	9	0	その他	154	138	16	繰延税金負債	15	13	2	その他	14	16	-2
その他	154	138	16	固定資産	1,451	1,497	-46	負債計	1,821	1,946	-125	少数株主持分	21	16	5
固定資産	1,451	1,497	-46	有形固定資産	938	978	-40	資本金	50	50	0	資本準備金	83	83	0
有形固定資産	938	978	-40	無形固定資産	1	1	0	利益剰余金	265	208	57	土地再評価差額金	18	20	-2
無形固定資産	1	1	0	投資その他の資産	512	518	-6	土地再評価差額金	18	20	-2	その他有価証券評価差額金	22	14	8
投資その他の資産	512	518	-6	(投資有価証券)	(203)	(182)	(21)	為替換算調整勘定	-14	-20	6	資本計	424	355	69
(投資有価証券)	(203)	(182)	(21)	(繰延税金資産)	(245)	(276)	(-31)	負債・資本合計	2,266	2,317	-51	有利子負債 合計	987	1,093	-106
(繰延税金資産)	(245)	(276)	(-31)	(その他)	(64)	(60)	(4)	D/E比率(有利子負債/資本)	2.3倍	3.1倍		株主資本比率	18.7%	15.3%	
(その他)	(64)	(60)	(4)	資産合計	2,266	2,317	-51	割引手形	0	2	-2				

5. 連結キャッシュ・フロー

	2004 中間	2005 中間	2004 年度
現金・現金同等物の期首残高	43	37	43
経常利益	(112)	(102)	(237)
税金等調整前当期純利益	84	100	170
減価償却費	47	44	96
事業構造改善費用	20	1	39
売上債権・仕入債務増減他	31	53	92
営業活動によるキャッシュ・フロー A	182	92	397
固定資産取得	48	47	108
固定資産売却	11	4	25
投資有価証券売却他	24	14	29
投資活動によるキャッシュ・フロー B	13	29	54
借入金返済等	191	78	351
財務活動によるキャッシュ・フロー	191	78	351
範囲変更/換算差額	2	1	1
現金・現金同等物の期末残高	23	23	37
フリーキャッシュ・フロー A+B	169	63	343

6. セグメント別売上高実績(()内、年度。05年度は見通し)(億円)

	2004 中間	2005 中間	差異	項目
化学品	579 (1,282)	636 (1,290)	○57 (8)	単独 スルソノマ、ビスフェノールA 機能性化学品、MS、ABS、塗料等
電子材料	122 (208)	108 (290)	×14 (82)	単独 樹脂コパ(東都化成) 樹脂コパ(エスパネックス)、HDDヘッド材料 2層CCL(エスパネックス)、HDDヘッド材料 LCDカーフィルム用レジスト、有機EL材料 半導体実装材料
コーラルケミカル	403 (818)	593 (1,170)	○190 (352)	単独 高炉用コーカス、鋳物用コーカス 製鉄用ガス
その他	189 (398)	131 (250)	×58 (148)	単独 ビッチコーカス、ピッチ、無水フタル酸(シーム) 関係 カボンブラック(新日化カボン) 特殊炭素製品(新日本ケミカルカボン) 関係 商事(新ケミカル商事) 環境分析等(新日化環境エンジニアリング) セラミックファイバー(新日化ケミカルセラミックス)
連結計	1,293 (2,706)	1,468 (3,000)	○175 (294)	





(セグメント別概況)

1. 化学品事業

当上半期のスチレンモノマー事業は、原油・ナフサ価格が高騰しましたが、中国における新設備稼働や経済引き締めの影響を受けて、アジア市況は弱含みで推移しました。また、ビスフェノールA事業については、ポリカーボネート向け需要に支えられ、アジア市況は昨年度下半期より堅調に推移してまいりましたが、アジア地域における新設備稼働に伴い、第2四半期に入り市況は下落しました。

フェノールチェーンについては、競争力強化の観点より、本年6月末に戸畑フェノール工場を廃止し、原料フェノールについて、韓国・錦湖P&B化学(当社出資比率21.8%)を始めとした海外のサプライヤーからの長期安定調達へ構造転換を実施しました。また、フェノール工場廃止に伴い、当社は年10万tのトルエン購入から、年8万tの供給ポジションへ転換しております。

化学品事業は、当社の基盤事業として、激化する市場競争に勝ち残るために、原料調達構造の強化、既存設備の更新等を実施し、コスト競争力強化を進めております。

2. 電子材料事業

2層CCL「エスパネックス」は、昨年秋口からの携帯電話の在庫調整及び高機能化の進展遅れの影響を受け、当上半期の販売量は伸び悩みました。既に「エスパネックス」は、ハイグレード用途の高機能材料として、業界で高い評価を受け、地位を築いておりますが、過去に供給能力の制約から、期待に応えられなかったお客様への拡販を進めるとともに、大型液晶ディスプレイ用COF(注1)向けの用途開発も進め、この分野での販売量は着実に増加しております。また、今後の需要増への対応とリスク分散を図るため、新たな生産拠点として、木更津製造所に加えて九州製造所に新ラインを設置し、本年7月には第6ラインが稼働し、12月には第7ラインが稼働します。これにより「エスパネックス」の生産能力は年850万㎡に増加し、国内外のお客様のニーズに応える高機能商品の生産能力を更に強化してまいります。

HDD(ハードディスクドライブ)向けサスペンション材料についても、旺盛なHDDの需要を受け販売量は順調に増加しており、当社としてもこれに対応して、生産能力の増強を進めております。

この他、液晶カラーフィルター向けのカルド樹脂(ブラックマトリックス、RGBインク材料等)や半導体実装材料DBS(注2)についても、お客様との連携の下で開発を進めた結果、機能面で高い評価を受けるようになり、販売量は順調に拡大しております。

電子材料事業は、当社の「成長」を担う事業として、開発と一体となって「世界一の商品を常に3つ以上持ち、電子情報分野で経常利益の50%以上を出す」ことを将来的な目標としており、そのために、「エスパネックス」に対するお客様の更なるニーズを先取りし、商品・用途の開発を進めることはもとより、成長分野である有機EL材料や高耐熱プラスチック基板等、新たな商品の開発に取り組んでおります。

(注1 COF:チップ・オン・フィルム...フレキシブル基板に直接ベア・チップを実装する方法)

(注2 DBS:ダイ・ボンディング・シート...プリント配線板にチップを実装するためのフィルム状接着材料)

3. コールケミカル事業

当上半期は、原料価格が高騰しましたが、世界経済が順調に拡大したことにより、ピッチコークス、無水フタル酸等の主力製品の需要も堅調に推移しました。「シーケム」は昨年10月の統合発足に際し、生産拠点の統合を行い、設備稼働率の向上とコスト競争力の強化を進めてまいりました。同社は、世界トップクラスのタール蒸留能力を持ち、原料タールの最有利な利用を目指しております。技術開発面でも、独自技術による石炭系原料では初となる人造黒鉛電極用高級ニードルコークスを開発し、上市しました。原料価格が高騰する中でも、「シーケム」はプロダクトミックスの強みを最大限に生かし、「世界最強の石炭化学会社」を目指した体質強化を進めております。

一方、高炉用コークスも、旺盛な鉄鋼生産によりフル生産が続いております。また、鋳物用コークスも、高水準の自動車生産により、需要は堅調に推移しました。